

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 5 月 31 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人ビーンズふくしま		
③ 団体所在地（都道府県・市町村名まで）	福島県福島市矢剣町 22-5		
④ 責任者氏名	武藤奈々	（役職名等）	アウトリーチ事業事業長
⑤ 担当者氏名	遠藤 宏志	（役職名等）	アウトリーチ事業支援員

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-038	⑥ 助成金額	121 万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	子どもの生きる力サポート事業				
⑩主な実施場所名・及びその住所	対象者宅、当法人事務所（福島県郡山市西ノ内 1-21-4-205）等				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

【活動の目的や内容】

子どもの非認知能力を育むことを目的に多様な学びの機会を提供。個別プログラムとして、学習支援、進路相談、ソーシャルスキルトレーニング、料理講座、工作、スポーツ、性教育講座、精神安定を目的とした各種相談を実施。集団プログラムとしてスポーツ、クリスマス会等を実施。

【参加人数】

26 名（小学生 7 名、中学生 7 名、高校生 12 名）

【活動成果と課題】

奨学活動を通して、関係性の構築、意欲の向上、生活技術の習得、学力の向上、希望する進路の実現、精神安定、自己肯定感の向上といった成果があった。一方で、奨学活動が一時的なものではなく継続的な活動となるよう地域への発信・波及が必要。

【主な購入品】

調理食材、学習支援教材、衛生用品

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3-2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 （A：人）	平均時間 （B：時間）	活動量 （A x B）	備考・補足・計算根拠等
中学生等	73	1	73	（左記意外に小学生 67 人）
高校生等	113	1	113	
大学生等				
学習支援員等	379	2	758	訪問の移動、プログラム準備の時間も含む
その他	8	2	16	ボランティア
合 計			960	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：子どもの生きる力サポート事業

法人・団体名：特定非営利活動法人ビーンズふくしま

作成者 氏名：アウトリーチ事業支援員 遠藤宏志

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【取り組んだ課題】

生活困窮世帯の子どもは、経済的な課題のみならず精神疾患、各種障がい、虐待、自傷行為、乱れた性行動、不衛生な住環境等、複合的かつ過酷な状況から生きる力が低下してしまっている。当法人では生きる力を、課題を認識すること、助けを求めること、危機回避能力、自己肯定感、意欲等と定義しており、文部科学省が重要視している非認知能力と同等のものである。生きる力（非認知能力）を育むには多様な経験や興味関心の拡大等が必要であるが、複合的かつ過酷な状況によりその機会が制限されてしまっている。

【実践した目的・実施内容】

非認知能力を育むことを目的に個別プログラム・集団プログラムを実施。

2. 実施した奨学活動の詳細

【活動内容】

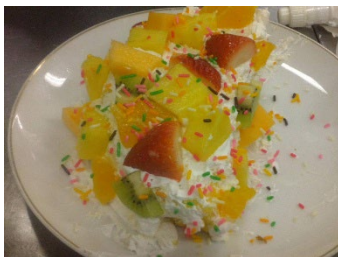
〈個別プログラムの実施〉218 回実施、延べ参加者 221 名

・プログラムの目的

意欲向上、興味関心の拡大、生活技術習得、ストレスケア、学力向上、コミュニケーション能力向上、自己肯定感の醸成、希望する進路の実現。

・プログラム内容

各種相談や料理講座、工作、スポーツ、学習支援、進路相談、性教育講座等を実施。



料理講座（ケーキ）



料理講座（サンドイッチ）



工作

〈集団プログラムの実施〉6 回実施、延べ参加者 32 名

- ・プログラムの目的

意欲向上、興味関心の拡大、生活技術習得、ストレスケア、コミュニケーション能力向上

- ・プログラム内容

クリスマス会（2 回）、調理実習、スキー、ソフトボール、お楽しみ会を実施。



クリスマス会 ※サンタクロースはボランティア



サンタクロース衣装



料理講座（シチュー、ピザ）

【参加人数】

- ・26 名（小学生 7 名、中学生 7 名、高校生 12 名）

【地域やボランティア活動との連携】4 回受け入れ、延べ 8 名

各プログラム実施の際にボランティアを受け入れ、プログラム実施前後での事前共有・振り返りを実施。

【学習支援員について】

- ・各プログラムの設定においては、子どもの希望や家庭の状況等を踏まえた上で子どもと話し合い双方合意の基でプログラムを提供。各プログラム実施後には事前に立てたアセスメントに基づいた振り返りを実施するとともに、週に 1 回事業内でも振り返り及びカンファレンスを実施。
- ・振り返り及びカンファレンスの実施：260 回

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

【本活動から得られたもの】

- ・意欲や自己肯定感が向上し、学力・進路・生活等で課題があった際に学習支援員に相談し、対策を考えることが出来るようになった。また、課題に対して主体的に対策を実践することが出来るようになっていく。
- ・成功体験の蓄積や学習支援員からの肯定的な評価、性教育講座での命の大切さや自身がかけていない存在であることを知ることによって自己肯定感が向上した。
- ・ストレスフルな状況にある子どもに対しては、ストレスケアを目的に活動をすることでストレスの軽減が図れた。
- ・意欲向上 26 名、興味関心の拡大 23 名、学力向上 7 名、希望する進路実現 2 名（復学 1 名、アルバイト 1 名）、ストレスの軽減 18 名

【反省点、課題】

- ・本活動を通して、子どもたちの生きる力は確実に育まれているが、地域の各支援機関との関係不和や当法人以外の外部との接点がないといった状況の家庭が多くある。対象家庭は複合的かつ過酷な背景がある為、地域で継続的に支える体制を構築する必要がある。本活動の必要性や対象家庭の実状を発信し、地域での支援体制構築に努めていく。

【今後への発展性】

- ・本活動の必要性をこれまで行政へも発信し続けてきた。その結果令和7年度の学習支援の委託事業において、新たに多様な学びに係る予算が組み込まれることとなった。引き続き、行政への発信を継続して多地域での支援体制の整備に繋げていきたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

この度は本活動を通して多くの子どもたちの生きる力を育む機会を創出することが出来ました。本当にありがとうございました。

本活動の中で、1人の子どもが「生きる理由が増えた。」と話してくれたことがありました。私はそれを聞いた時に生まれて10数年で生きる理由を考えなければならない程の過酷な状況に置かれていること、そしてその子が必死に今を生きてくれていることを思い知らされました。この子の頑張りには甘えてはいけない、私たちがもっと考えなければならないと強く感じました。この子は当法人の活動の時にはいつも笑顔で積極的に参加してくれています。この子が幸せを掴み取れるように、何が最善なのかをこれからも考え、実践していきたいと思います。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）